

楓の森アップデート

学校教育目標：夢を持ち 自ら考え よりよく行動できる児童の育成



合志市立合志楓の森小学校
学校だより 第21号
令和6年(2024年)1月26日
文責 校長 佐藤 政臣

読書好きになるための教科書の学習内容（6年間の学び）

国語の教科書では、全学年で読書の楽しさを広げるために「①読書生活に目を向ける読書単元」と、「②図書館の活用について学ぶ教材」が位置づけられています。

例えば6年生では、「①読書生活に目を向ける読書単元」では、「読書とわたし(12月)」で、6年間の読書生活について振り返り、大切な1冊を決めて友達と伝え合う学習をしました。また、「②図書館の活用について学ぶ教材」では、「図書館にいこう(4月)」で、地域の図書館や学習施設・文化施設について伝え合う学習をしました。

このように全学年が毎年、系統的に学ぶことで、「読書を通して人生を豊かにしようとする態度」を育成しています。しかしながら、「読書が好きという児童」と「読書が好きでない」という児童が二極化しているのが現状です。では、読書は、私達にどのような影響を与えるのでしょうか。

読書と語彙力の関係について

ベネッセ教育研究所(2016.7)が、全国の高校生から社会人の3,130人を対象に、「読書と語彙力の関係」について調査しました。

調査方法は、厳選した540語(辞書語彙270語新聞語彙270語)について、「知っている」、「知らない」で回答し、「知っている」割合で語彙力を表します。その結果、以下のデータが得られました。

①読書の好意度と語彙力について

まず、「あなたは読書が好きですか」という質問に回答していただきました。結果は以下の通りです。

「とても好き(16%)」、「好き(23%)」、「どちらかという好き(24%)」、「どちらともいえない(15%)」、「どちらかという好きではない(10%)」、「好きではない(7%)」、「まったく好きではない(5%)」

その中で、「とても好き」と答えた人は、540語のうち77.7%を「知っている」と答えました。

しかし、「好きではない」と答えた人は、55.1%、「まったく好きではない」と答えた人は、48.2%という結果となり、「**とても好き**」と答えた人と比較すると、**語彙力の差が29.5%もありました。**

②読書が好きになったきっかけ

次に、「『とても好き』、『好き』、『どちらかという好き』と答えた人に聞きます。読書が好きになったきっかけは何ですか。」という質問に対して、

1番多かったのが「**子供の頃の読み聞かせ**」であり、2番目に多かったのが「**身近な人が本好きだったから**」と答えています。



③読書量と語彙力の関係

さらに、「1か月に何冊本を読みますか(マンガや雑誌を除く)。」という質問に対して、

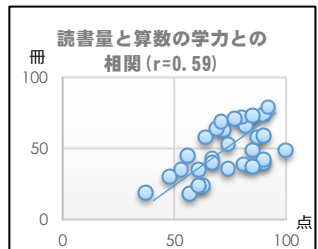
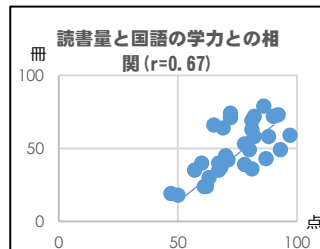
「全く読まない(30%)、1~2冊(43%)、3冊以上(23%)、わからない(4%)

という結果でした。この質問の「3冊以上」と回答した人で、「本を読むきっかけは何ですか」という質問で1番多かったのが、先ほどと同様「**子供の頃の読み聞かせ**」であり、2番目に多かったのが「**身近な人が本好きだったから**」と答えています。また、「全く読まない」と回答した人の語彙力は59%、1~2冊読むと回答した人の語彙力は71.2%となり、差が12%と大きかったことから**1冊でも読書することが語彙力の向上につながるという可能性を示唆しています。**

これらのことから、読書のきっかけをつくるためには、読み聞かせが有効であることが改めてわかりました。読書好きの子どもたちになるように、**読み聞かせボランティアを募集していますのでよろしくをお願いします。**

読書量と学力の相関

次のグラフは、私が調査したもので「熊本県学力調査と国語、算数の得点」との相関関係を表したグラフです(2009 佐藤)。国語(相関係数 $r=0.67$)、算数(相関係数 $r=0.59$)ともに「高い相関関係がある」ことがわかりました。このことから、読書が学力に及ぼす影響がかなりあると言えます。



合志市ことのは作品コンクール入賞

1月20日、合志市文化会館で、第12回合志市ことのはコンクールがありました。入賞者を紹介します。おめでとうございます。

【一行詩の部】

- 最優秀賞 1年 工藤 悠真さん 1年 甲斐 梨帆那さん
4年 笹原 悠暉さん
- 優秀賞 3年 浜岡 坦さん 3年 松浦 莉央さん
5年 飯干 煌大さん
- 入選 5年 馬場 千尋さん 6年 河野 律斗さん

【ポエムの部】

- 優秀賞 3年 萩尾 日千香さん
- 入選 3年 野田 美央莉さん

